

令和3年度

宮崎国際大学入学者選抜試験問題

国語

国際教養学部

教育学部

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子及び解答用紙の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて30ページあります。(問題は2ページからです。)
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、解答用紙の汚れなどがあった場合には、直ちに手を上げて監督者に申し出てください。
4. 試験開始後、解答用紙の所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入してください。
5. 解答は、問題ごとに、解答用紙の指定された箇所に記入してください。
6. 時間内に解答し終わっても、退出することはできません。
7. 試験中に質問等があるときは、黙って手を上げて監督者を呼んでください。
8. 不正行為について
 - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ②不正行為があった場合、その時点で受験を取り止めさせ、退室させます。

一 次の各問いに答えなさい。

問一 次の文の傍線部A、Bのカタカナに該当する漢字の最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選びなさい。

扇風機が故障したが、メーカー ホシヨウ 期間を過ぎていなかったので ムシヨウ で修理をしてもらった。

- | | | | | | |
|---|------|------|---|------|------|
| ア | A―保障 | B―無証 | イ | A―保障 | B―無傷 |
| ウ | A―保証 | B―無償 | エ | A―保証 | B―無証 |
| オ | A―補償 | B―無傷 | カ | A―補償 | B―無償 |

問二 次の文の傍線部A、Bの漢字に該当する読みの最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選びなさい。

学問の神様が祀まつられている宮崎天満宮は、学業 成就 の 御利益 があることで知られている。

- | | | |
|---|-----------|--------|
| ア | A―せいしゆ | B―ごりえき |
| イ | A―せいじゆ | B―ごりやく |
| ウ | A―せいしゆう | B―ごりえき |
| エ | A―じようじゆ | B―ごりやく |
| オ | A―しyouしゆ | B―ごりえき |
| カ | A―しyouしゆう | B―ごりやく |

問三 次の文の空所に入る慣用句として最も適切なものを、あとのア～オから一つ選びなさい。

田中さんは私にとって（ ）友人のひとりで、他の人には言えないようなことでも彼女には気軽になんでも話せてしまう。

ア 気に障る

イ 気になる

ウ 気にならない

エ 気の置ける

オ 気の置けない

問四 次の文の内容を最も適切に言い表す四字熟語（故事成語）を、あとのア～オから一つ選びなさい。

有名な大企業に勤めて組織の末端として働くより、無名でも小さな会社の経営者として腕を奮うほうがよい。

ア 臥薪嘗胆がしんしょうたん

イ 大器晩成

ウ 一攫千金いっかくちん

エ 鶏口牛後

オ 竜頭蛇尾

問五 次の文の空所（A）に該当する作家名と空所（B）に該当する作品名の最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選びなさい。

「新感覚派」の代表的な小説家である（A）は日本の美を独自の感性で捉えて叙情的に描き、一九六八年、日本初のノーベル文学賞に輝いた。代表作に青春の感傷を瑞々しく描いた（B）、『雪国』、『千羽鶴』などがある。

- | | | |
|---|---------|-------------|
| ア | A―三島由紀夫 | B―『金閣寺』 |
| イ | A―三島由紀夫 | B―『仮面の告白』 |
| ウ | A―大江健三郎 | B―『個人的な体験』 |
| エ | A―大江健三郎 | B―『セヴンティーン』 |
| オ | A―川端康成 | B―『細雪』 |
| カ | A―川端康成 | B―『伊豆の踊り子』 |

問六 次の文の傍線部A、Bを正しい敬語で言い換える場合の最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選びなさい。

先生が以前青森に 行ったとき、なにか美味^{おい}しい郷土料理を 食べましたか。

- | | | | | | |
|---|---------|---------|---|-----------|----------|
| ア | A―行かれた | B―いただき | イ | A―いらっしゃった | B―召し上がり |
| ウ | A―うかがった | B―召し上がり | エ | A―うかがわれた | B―食べられ |
| オ | A―参られた | B―食べられ | カ | A―参られた | B―召し上がられ |

問七 次の文の傍線部A、Bをわかりやすい表現に言い換えるとどうなるか。最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選びなさい。

教育現場における超過勤務の A 実態に鑑みると、働き方改革を一段と加速させることが B 喫緊の課題である。

- ア A―実態に配慮する B―現在における最大の
- イ A―実態を憂慮する B―早急に進めるべき
- ウ A―実態を考慮する B―差し迫って重要な
- エ A―実態に注意する B―現在における最大の
- オ A―実態に大意する B―早急に進めるべき
- カ A―実態に同意する B―差し迫って重要な

問八 次の文の傍線部の言い換えとして最も適切なものを、あとのア～オから一つ選びなさい。

インターネット上から集めた情報は、プライオリティを考えて取捨選択し整理しておかないと、いたずらに死蔵されるばかりで有効活用ができない。

- ア 優先順位
- イ 閲覧数順位
- ウ 信頼性の高さ
- エ 話題性の高さ
- オ 内容の充実度

問九 次の文の傍線部を簡潔に言い換えるとどうなるか。最も適切なものを、あとのア～オから一つ選びなさい。

周囲との摩擦を避けて見て見ぬふりをする悪習が根づいている組織は、何事につけても責任の所在が不明瞭である。

- ア 個人主義が浸透している
- イ 集団主義に染まっている
- ウ 保守主義が幅を利かせている
- エ 事なかれ主義がはびこっている
- オ 権威主義にあぐらをかいている

問十 次の文章の空所 にあてはまる語句の最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選びなさい。

ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

教育という字は、「教」と「育」に分けることができる。そして、興味深いことは、育という語は、育てる、育つ、と他動詞にも自動詞にも用いられることである。

教育ということには、教育する側と教育される側とがあり、教育する方から考えると、やはり自分が「」という行為に重点がおかれ、その後で、「」ということが考えられるが、「」となると、これはその本人の自発的なはたらきであるから、教育とは関係がない、あるいは考慮の外にある、ということになりがちである。

しかし、教育ということを深く考えるならば、そのベースに、教育される側に潜在している自ら「」力ということを無視することはできないのではなからうか。「教育」ということは、これまではどうしても、教育する側の視点から発言されることが多かったので、何を、いかに教えるかに重点がおかれがちで、「」はおろか「」ことの方さえ、軽視される傾向が強かったのではなからうか。

(河合隼雄『子どもと学校』岩波新書による)

- ア A―育てる B―教える C―育つ
イ A―育てる B―育つ C―教える
ウ A―育つ B―育てる C―教える
エ A―育つ B―教える C―育つ
オ A―教える B―育てる C―育つ
カ A―教える B―育つ C―育てる

一一 次の文章は、吉行淳之介の小説「子供の領分」の一節である。^(注) AとBは小学五年の同級生で、Aは近所の路地で犬をかまわって遊んでいた犬好きのBに、今度の日曜日に犬屋（犬の繁殖を手がける業者）に遊びに行こうと誘った（その犬屋にはAの家で飼っている柴犬が仔犬を産むために預けられている）。しかし今度の日曜日は用事があるからとBに断られたAは、その次の日曜日にしようと提案してBの約束をとりつけ、その日は別れた。以下の文章はそれに続く場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

次の週が来るのを待ち兼ねて、AはBにたずねた。

「今度の日曜は、大丈夫だね」

「うん、それがね……」

Bは生返事をした。

「それが、といったって、この前ちゃんと約束したじゃないか」

「うん。あと、二、三日たてば、はつきりするんだけど……」

Aが① 気色ばむと、Bは曖昧な調子で答えた。

家へ帰って、Aが祖母にBの煮え切らぬ態度を訴えた。祖母は、しばらく考えていたが、

「それはおまえ、Bさんは電車賃が無いのじゃないかしら」

「まさか」

反射的にそう答え、一層強く言った。

「だって、そんな……」

それは、祖母の言葉に反対したというよりは、Aが 祖母の言葉に不意を打たれたためである。

「あたしは、そうおもうね。ために、電車賃のことは心配しないでいい、といって誘ってごらん」

祖母がそう言ったときには、Aはその言葉を正しいとおもっていた。Bが貧乏なことは、十分承知していた。だからこそ、Bを喜ばせようとおもって、誘ったのだ。

一度だけ、Bの家でおやつを出してくれたことがある。顔色のわるい小柄なBの母が、ふかしたサツマイモを持って台所から出てきた。縁の欠けた小さな皿の上に人差指くらいの太さの芋が、五本ほど載っていた。細い屑芋には、あちこちひよろひよると長い毛が生えていた。

「こんなもの、おいしくないでしょうね」

Bの母親が、ちよつと憤ったような口調でそう言う前に、Aは狼狽に似た気持になっていた。Bの家にとって、その屑芋が貴重なものであることが分ったからだ。

(b) Aはいそいでその芋をつまみ上げ、口の中に押し込んだ。

犬屋へ遊びに行くことは、Bにとつても愉しいことにちがいない、とAは考えていた。犬屋へ行けば、歓待してもらえる筈だ。それに、遊園地へ行くのと違って、入場料も遊戯券を買う金も不要なのだ。そうおもって、勢いこんでBを誘ったのだが、その場所へ行き着くための電車賃のことには、考え及ばなかった。

BはAの殆ど唯一の友だちである。そのBの生きている世界について、自分はあまり知らないのではないか、という考えに襲われ、Aは②ひるんだ気持になった。

「やっぱり、今度の日曜に行こうよ。電車賃の心配はいらないよ」

翌日、AはBに言った。もっと婉曲な言い方を考えてみたが、結局、Aはそう言った。Bの曖昧な表情は、変わらない。

「ね、そうしようよ。一しょに行こうよ」

重ねてAが言うと、Bは曖昧にうなずいた。

郊外電車に乗換えて、三十分ほど走ると、沿線の風景は田と畠と森になった。

小さい駅で降り、田舎道を訊ね訊ね十五分ほど歩くと、木の柵や金網で囲まれた一劃があった。それが、目的の犬屋で、近づくにつれて獣のにおいが強くなった。

応接間風の部屋に通され、彼らはしばらくの間、二人だけにされた。歓待の気配はまだ彼らのまわりにはなくて、Aは苛立たた。ようやく戸が開いて、女中が盆を持って入ってきたとき、Aはおもわず首を伸ばして彼女の手もとに視線をそそいだ。盆には、塩センベイと白い飴が盛られてあった。

女中が姿を消すと、Aはいそいで飴を一つつまみ、口に入れた。

「あまい。君、なかなかあまいぞ」

Bも手をのばして、飴を口に入れて言った。

「うん、あまいや」

しかし、その言葉の調子には、わざとらしいところがあった。嬉しい様子をする自分が自分の今日の役目だ、とBは自分に言い聞かせている。^(c) そんな気配をAは感じ取り、一層焦る気持が濃くなった。

「はやく犬のいるところへ連れて行ってくれないかなあ」

AはBに気兼ねするように、そう言った。

「うん、きつとおもしろいぞ」

BもAに気兼ねするように言った。

ようやくその家の夫人が現われた。Aは一、二度会ったことがあるだけで、親しい間柄ではない。

「まあまあ、遠いところを、よくいらっしやいましたわね」

「ぼくの友だちのB君です」

「それは、まあよくいらっしやいました」

夫人はBにも、丁寧に挨拶した。Aは、安堵した。夫人は、Aの両親について儀礼的な質問をすると、

「それでは、いま、係のものに案内させますから、ちょっと待っててくださいね」

夫人が姿を消し、またしばらくの間、彼らは二人だけにされた。

「君、この飴、すこし持って行こうや」

Aは白い飴を片手で掴み、ポケットに入れた。悪戯っぽい表情でそう言ったが、それには遠足気分を無理してふるい立たせている気配が伴った。

「うん、そうしよう」

Bも、あたりを見廻す素振りをして、ポケットの中に白い飴を掴みこんだ。

やがて、作業服の青年が戸を開くと、

「それじゃ、ご案内しましょう」

と、事務的な口調で言った。

戸外へ出ると、黒茶いろの犬が威勢よく走りよって、Aの胸もとに飛び付くと、長く舌を出して彼の顔を舐めた。甘える唸り声を絶え間なく出し、時折、明るい吠声を混じえて、Aにじゃれついた。

「やあ、チイだ」

Bが少年らしい明るい声をあげた。チイとは「千早号」というその犬の愛称である。犬はその声で、Bの方に首を向けたが、すぐにAに顔を向け鼻づらを彼の洋服に押し当てて、尻尾をはげしく振りつづけた。

「おい、チイ、B君だぞ」

Aは犬の顔の両側を掌で挟んで、Bの方へ向ける。その声に、犬は尻尾を振るのをやめてBの顔を眺め、あらためて勢よく尻尾を振った。しかし、すぐにAの方に向き直ると、軀全体でAにまつわりついてくる。

「それでは、犬を戻しますよ」

と作業服の青年が言い、千早号を柵の中に入れた。

広い地面は、柵や檻でいくつにも割られて、その中にさまざまな種類の犬が入っていた。柵や檻で占められた残りの地面が、おのずから通路になっており、彼らを案内して歩く青年はしばしば立止って、檻の中の犬について説明を加えた。

「あれが、千早号の旦那さんですよ」

檻の中で、柴犬とはおもえぬほどの大柄の犬が、遅しい四肢を踏んばって、彼らの方に顔を向けていた。眉間に縦に三本深い皺があつて、その毛の色が濃く、黒い三本の溝にみえた。そのため、AとBを睨み付けているような顔つきになっていた。檻の金網に「仁王号」という札が掲げてあつた。

一わたり案内すると、

「それでは、あとは勝手に見物してください。倦きたら、もとの部屋に戻ってくださいな」と、青年が言い、姿を消した。

犬たちは全部柵の中に入れられており、通路は閑散としていた。二人の少年だけが、やや手もちぶさたに、歩いていた。そのとき、一匹の黒い犬が、身をかがめるようにして向うから歩いてきた。

Aは口笛を吹き、掌を上に向けて、手まねきした。千早号に軀をすりよせられ纏い付かれたあとなので、Aのその態度には自信と余裕が滲み出ていた。

しかし、その黒い犬はAの方を見向きもせずに、同じ足取りで二人の少年の傍を通り過ぎて行った。

Aは団扇を使うように上下に揺すぶっていた掌の動作を途中でやめ、そのままの姿勢で地面の上につくりつけたような形になった。乾いた堅い地面を踏む犬の蹠の規則正しい音が、異様に鋭くAの耳のなかで鳴った。

その音が不意に、聞えなくなつた。電気仕掛の機械人形に、ふたたび電流が通じはじめたように、Aは首だけうしろに深くまわした。すると、立止っていた黒い犬も首だけまわしており、視線が合った。

その瞬間、黒い犬は勢よく走り出した。晩夏の日射しに照りつけられて白く乾いた地面から、埃がくつきりと立昇った。黒い犬は、Aを目標にしているように、真一文字に走ってきた。首を深くまわした姿勢のまま、Aは走ってくる犬を眺めた。黒い犬

は軀ごとAのふくらはぎに突き当り、剥き出した歯をAの脚の肉に当てた。そして、そのまま、Aの傍を軀をこすりつけるようにして走り抜け、みるみるその姿は小さくなり、曲り角で消えた。獣のおいが、強くAの鼻を撲った。

噛みついた、というのとは少し違う、とAがおもったとき、Bの声が聞えた。

「や、噛みついた！」

Bは一瞬口を噤み、

「へんな犬だなあ」

と言い、つづいて爆発的に笑い出した。その日はじめて聞いた、少年らしい明るい愉快そうな笑い声だった。

その笑い声は長くつづき、Aはむっとした表情で黙って佇んでいた。Bはようやく自分の笑い声に気付いた様子で、不意に口を堅く閉ざした。

Aは半ズボンの下の黒い長靴下をずりおろし、犬の歯の当たった部分を調べた。赤く歯型が付いていたが、皮膚は破れていなかった。

Aは必要以上に長い時間、その赤い歯型の上を指で撫でていた。すると、Bのいささか慌て気味の声か聞えた。

「狂犬じゃないだろうね」

Aの身の上を心配して慌てているというよりは、^(f) 自分の取った態度に慌てている。だから、その言葉は、いくらかわざとらしく聞えた。

「噛まれたわけじゃないから、狂犬だとしても心配はないさ」

Aは不機嫌にそう言い、

「もう帰ろう」

とBを促した。

Aの不機嫌はしばらく続き、郊外電車の駅で切符を二枚買ったとき、その一枚を、^③ ぎょうぎょうしくBに差出した。

「ほら、君の切符」

(g) そう言つて間もなく、今度はAが自分の態度に慌て出した。Bの機嫌を取る言葉をいくつかAは口に出し、やがて二人とも疲労して、すっかり無口になり、電車に揺られて坂の上下の彼らの家に向つた。

(注) 一九六二年文芸雑誌『群像』に発表。旧字体はルビをふつてそのまま掲載し、「気持」「聞え」などの仮名遣いも原文の通りとした。

問一 傍線部①～③の文章に則した意味として最も適切なものを、それぞれのア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 気色けしきばむ

ア 怒つたようなむっとした表情になる

イ びっくりして青ざめた表情になる

ウ 興ざめしてあきれた表情になる

エ 残念に思つて困り果てた表情になる

オ 悔しく思つて泣きそうな表情になる

② ひるんだ気持

ア 申しわけないと謝りたい気持ち

イ 自信を失つてくじけた気持ち

ウ いまさらながら後悔する気持ち

エ 絶望感にさいなまれる気持ち

オ 自分に腹が立ってやるせない気持ち

③ ぎょうぎょうしく

ア 投げやりな態度で

イ さりげない態度で

ウ そっけない態度で

エ 大げさな態度で

オ 冷やかな態度で

問二 傍線部(a)「祖母の言葉に不意を打たれた」とはどういうことか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア Bの家が貧乏であることはAも知っていたが、祖母があまりにも露骨な言い方をしたので、Bのことをそんな風に偏見の目で見っていたのかと残念に思う気持ちと同時に、祖母の意外な一面を知って衝撃を受けたということ。

イ Bの家が貧乏であることはAも知っていたが、祖母が自信ありげに電車賃のことを指摘したので、もしかしたら祖母の言う通りかもしれないと思い、Bを傷つけてしまったことへの後悔の念が突然襲ってきたということ。

ウ Bの家が貧乏であることはAも知っており、だから特にお金がかからない犬屋にBを誘ったつもりだったが、犬屋に行く電車賃のことまではまったく頭になかったため、思いもかけない祖母の言葉に動揺してしまったということ。

エ Bの家が貧乏であることはAも知っており、だから遊園地と違って電車賃だけで楽しい時間を過ごせると思って犬屋にBを誘ったのだが、祖母の言葉を聞いてBの気乗りしない様子の意味をようやく理解できたということ。

問三 傍線部(b)「Aはいそいでその芋をつまみ上げ、口の中に押し込んだ。」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを次の

ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア Bの母親が少し怒ったような口調で「おいしくないでしょうね」と言ったので思わずうろたえてしまい、そんなことはないということを示すために、出された芋をががつと食べるところを見せてBの母親に安心してもらうため。

イ Bの母親が「おいしくないでしょうね」と言っ出て出してくれたみすほらしい芋が、Bの家では貴重な食料であると感じて申し訳なく思い、感謝の気持ちを表すためには無理やりにも芋を口の中に押し込むしかなかったため。

ウ Bの母親がおやつに出してくれた貧相な芋を見たときに、Bの家がそこまで貧乏であることを知ってあわれに感じたが、そんなことは全然気にしていないことを示すには無理やり芋を口の中に押し込むしかなかったため。

エ Bの母親がおやつに出してくれた貧相な芋を見たときに、改めてBの家が貧乏である現実に向き合って思わず動揺してしまっただが、そんな自分を取り繕うには出された芋を急いで口の中に押し込むしかなかったため。

問四 傍線部(c)「そんな気配をAは感じ取り、一層焦る気持が濃くなった。」とあるが、そのときのAの心情として最も適切な

ものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今回の犬屋の訪問ではBを楽しませることが目的でもあるのに、Bの言動にはどこかAに気兼ねをして自分が一步身を引いている様子に感じられ、このままではBを犬屋に誘った意味がなくなってしまうという焦燥感が強くなっている。

イ 今回の犬屋の訪問をBが気乗りしていない様子は相変わらずで、無理やりBを誘ってここまで来たからには、せめて来てよかったとBに喜んでもらわないことにはAの面子が立たないと焦る気持ちが次第に強くなってきている。

ウ 今回の犬屋の訪問はBにとっては初めてのためか、どこか緊張して遠慮がちになっている様子がBの言動から感じとれたため、早くBの緊張をほぐして心から楽しめるようにしてあげたいという焦燥感が強くなっている。

エ 今回の犬屋の訪問がBにとってそれほど興味が無いということやBの言動から感じられたが、犬が好きなBのことだから実際に犬を見れば心から楽しんでくれるはずだと思い、早く外を案内してほしいと焦る気持ちが強くなっている。

問五 傍線部(d)「遠足気分を無理してふるい立たせている気配が伴った。」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを次のア

～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア これまでのところAの思い通りの展開になっておらず、おやつを餌をくすねる企みたくらを思いついてBに声をかけるのだが、そこにはどうにかして楽しい雰囲気をつくらなければならないというAの焦りや義務感のようなものがにじみ出ているから。

イ これまでのところAの思い通りの展開になっていないが、本当に楽しいのはこれからだということをBにわかってもらうために、ちょっとした悪ふざけを持ちかけて秘密を共有することで期待感を高めようと必死になっているから。

ウ これまでのところAの思い通りの展開になっていないが、それもあと少しの辛抱であることをA自身が思い込みたいためにちょっとしたいたずら心口を口にするので気をまぎらわせ、楽しい気持ちを取り戻したかったから。

エ これまでのところAの思い通りの展開になっていないうえに、夫人がいなくなっていて二人きりにされたことでいっそう気まずい雰囲気になってしまったため、話題を変えることで悪い流れを断ち切ろうと躍起になっているから。

問六

(e)の点線で囲んだ部分では、二人のそばを通りすぎていった黒い犬がAに向かって突進して姿を消すまでの場面が叙述されている。ここでの表現に関する説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 短い間に起きた突然の出来事を、Bの視点を通してユーモアを込めて綴^{つづ}っており、Aの滑稽^{こっけい}な様子をおもしろおかしく活写することで、そのあとBが爆発的に笑い始めた理由がよくわかるようになっていく。特に、黒い犬がAにぶつかったときの描写では、Aが噛みつかれたのかどうかを曖昧にしているため、犬が去ったあとのAとBとのぎくしゃくした会話がいつそう際立ち、少年たちの繊細な心情や二人の微妙な関係性を暗示している。

イ 短い間に起きた突然の出来事を、それまでの文体とは趣^{おもむき}を変えて過去形だけを使った文で構成することで、かえって現在進行形の臨場感がリアルに伝わってくる。その中でも、千早号にじゃれつかれたことで得意気になって黒い犬を手招きしていたAにいきなり黒い犬が突進してぶつかった場面では、恐怖におののくAの様子がありありと目に浮かび、それを見てBがおもしろがっている姿も行間からうかがえるような巧みな描写がされている。

ウ 短い間に起きた突然の出来事を、Aの心情には一切触れることなく時系列に沿って淡々と綴っている。その中で、Aのしぐさや動作を「電気仕掛の機械人形」にたとえる視覚効果、Aの耳が音で捉えた犬の動き、犬がAにぶつかったときの緻密な描写、犬が消えたあとに残った獣のおいなど、読者の視覚、聴覚、触覚、嗅覚を呼び覚ますような印象的な表現を織り交ぜることで、奥行きのある立体的な情景と緊張感にあふれた情景を描き出している。

エ 短い間に起きた突然の出来事を、Aの主観的な視点から回顧する構成になっている。その中で、Aが味わった恐怖感をあえて言葉で表現しないことで読者の想像力を刺激し、Aが置かれている状況や刻々と変化する心情が読者自身の身に起きてくるように感じさせる。特に、黒い犬がAに向かって突進する場面はスローモーションの動画を見ているようなゆったりとした静的な表現であるため、その時の恐怖心が脳裏に焼きついて離れないインパクトがある。

問七 傍線部(f)「自分の取った態度に慌てている」とあるが、それはどういうことか。Bの直前の言葉「狂犬じゃないだろうね」と関連づけた説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア Aが黒い犬に噛みつかれたと思ってBが声をあげたものの、そのあとのAのしぐさを見て噛みつかれていないことをBが確信し、安心すると同時に爆笑したことを反省して謝罪の意味を込めてAに声をかけたということ。

イ Aが黒い犬に噛みつかれていないことは、そばで見えていたBもよくわかっているのだが、Aが必要以上に犬の歯が当たった部分をさすっているのを見て笑っている場合ではないと気づき、Aを心配する素振りを見せたということ。

ウ Aが黒い犬に噛みつかれたかもしれないのに心配する素振りを見せず、愉快そうに笑い続けていたBの態度がAを不機嫌にさせていたこととあとから気づいてうろたえ、慌ててAの身の上を心配する言葉を発したということ。

エ Aが黒い犬に噛みつかれたかもしれないとBも心配したが、それよりいま起きた出来事に対して心の底から笑ったことで二人の友情が壊れてしまったと思って焦り、本当はAの身を案じていたことを伝えておきたかったということ。

問八 傍線部(g)「そう言って間もなく、今度はAが自分の態度に慌て出した。」とあるが、それはなぜか。Aの「自分の態度」に触れたうえで、100字以内(句読点を含む)で記述しなさい。ただし、解答用紙の先頭の一マス目を空けて書かなくてよい。下書きが必要であれば、29～30ページの下書き用原稿用紙を自由に使いなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

言語的相対主義

イギリスの有名な小説家 D.H. Lawrence に *Prelude* という短編がある。その中に或る女が、紅茶を入れる描写が出ている。

.....and catching up the blue enamelled teapot, [she] dropped into it a handful of tea from the caddy, and poured on the water. (彼女はブルーの琺瑯のティーポットを取上げ、かん 罐から手のひらに出したお茶を、ポットに投入し、その上に水をそそぎ入れた。)

あまりイギリスの生活習慣に詳しくない人ならば、所変れば品かわるで、イギリスでは、お茶を水で出すこともあるのかと思うかも知れない。或いは英語で、お湯は hot water だと学校で習ったことのある人は、water の前に hot が脱落したのではないかと疑うかも知れない。ところがどちらの ① カイ シヤクも正しくないのである。

イギリス人がお茶好きなのは、世界的に有名である。 **A** 彼等はお茶の入れ方がともうるさい。葉やかん 罐をグラグラに

煮立たせて、本当の熱湯でお茶を入れることを要求する。 **B** 満足しない人がいて、葉罐をポットに持って行くな、ポット

を葉罐に持って行けとさえ言う。 **A** **C** ポットは、あらかじめカップ一杯の熱湯で温めておくのが常識である。 **C** 水

でお茶を入れることなど、全くあり得ない。

このような事情が、次の Agatha Christie の推理小説 *A Pocket Full of Rye* の一節に、生々と描かれている。

ある事務所に雇われた新米の、無気力ならしめないソマーズというタイピストが、お茶の入れ方がなっていないといって、古参の主任タイピストに叱られている所だ。

The kettle was not quite boiling when Miss Somers poured the water on to the tea.Miss Griffith, the efficient head typist,said sharply : "Water not boiling again, Somers!" (葉罐がまだ本当に煮立っていないのに、ソマーズ嬢は水をお茶の上にそそいだ、.....有能な主任タイピストのグリフィス嬢が「ソマーズ、また水が煮立っていないわよ」と怒って言う)

た。

この二つの例から分るように、実は英語には日本語の「湯」に当ることがないのである。water という一つのことばを、情況次第で「水」のことにも「湯」のことにも使う。

勿論英語でも、冷たい水との区別をはっきりつける必要がある時は、hot water と言うことができる。しかしこのように hot をわざわざつけなければならないということは、^(a) water ということばが、温度に関しては、元来中立的な性質を持っていることを示すものだ。

これに反し、日本語の「水」は、冷たいという性質をかなりはっきりと持っている。「熱い水」という表現が不自然にひびくのも、「四角い三角」と同じくらい、矛盾したものだからである。

化学式では H_2O で示すことのできる物質は、日常的な日本語では温度及び様態によって「氷」「水」「湯」の三つに区別して呼ばれている。それが英語では、ice、water の二つであり、マレー語では air 一つしかない。これを比較して図に示したのが第 1 表である。

	H ₂ O		
マレー語	air		
英語	ice	water	
日本語	氷	水	湯

第 1 表

マレー語でも、お湯を特にはっきり言いたい時は、air panas と言わないことはないが、英語の hot water と同じようなものである。また氷をはっきりと水から区別したい時は、air beku つまり「かたまつた水」と言うことができるが、^(b) air だけでもかまわないのである。

ここにあげた、水ということばの三つの言語による内容の相違は、人間のことばというものが、対象の世界を或る特定の角度から勝手に切り取るというしくみを持っていることの例としてよく引かれる。

人が一つの言語の中で終始生活していれば、ものとことばの関係は、いわばジ ⁽²⁾ メイの前提として、⁽³⁾ カイギの対象にはなりにくい。それをこのように他の言語と比較することで、身近な水や湯や氷のようなものでさえ、日本語という特定の言語に依存している、^(b) 恣意的な区分にすぎないの

だということがはじめて理解されるのである。

ことばの分節性が世界を秩序づける

日本人にとって、水や湯や氷がそれぞれ独立した、いわば別個のものであるのは、「水」「湯」「氷」のような、互いに区分が明確で、それぞれが独立した存在であることばの持つ構造を、現象の世界に私たちが投影しているからなのである。

水と湯の区別とは、ちょっとした温度の差に依存するわずかなものであり、相対的な対立でしかないということは誰の目にも明らかであろう。しかしこれに比べて、氷と水（および湯）の間には、究極的には温度の差に^④キすることができにせよ、一応液体と固体の差という比較的明瞭な区分が存在する。だから両者の区別は、単なることばの問題というよりも、ものの側に、それを裏付けるだけの要因があるのだと言う人がいるかも知れない。

しかしそれならば、氷とつららの区別はどうであろうか。或る限られた条件（生じる場所と形状）の下で、日本語ではあたりまえの氷が、「つらら」と呼ばれるにすぎない。氷とつららの区別を支えているのは、ここでも矢張り、「氷」と「つらら」という、同一の対象を違った角度から見方につけられたことばなのである。だから、^(c)ものとしてのつららが立派に存在するトルコで、「氷」buзと区別された「つらら」ということばがなくても不思議ではない。

このように考えてくると、氷と雹^{ひょう}、霰^{あられ}、雪、霰^{みぞれ}、などとの区別もあやしくなる。気温が上ればこれらはすべて雨になってしまふ。そして雨と霞^{かすみ}、霧^{もや}の相違も水滴の粒子の大きさの問題にすぎず、しかも地面との相対的な距離のちがいで、どれも雲になり得る。

素材の点では同一であるこれらの諸現象が、なぜそれぞれ違った名称を与えられているかといえは、その方が人が生活していく時に、便利だからである。都合がいいのである。

ものにことばを与えるということは、人間が自分を取りまく世界の一面面を、他の側面や断片から切り離して扱う価値があると認めたということにすぎない。

(d) 化学式で H_2O と一括することのできる同一のものが、日本語で「氷」「水」「湯」「ゆげ」に始まり、「露」「霜」から「春雨」や「夕立」に到る、何十という別々のことばで呼ばれていることは、しかし、確実なものとしての存在は H_2O だけであって、それ以外の名称は、名前だけの実体のない存在、つまり対象の側に必然的な裏付けのない虚構であるということにはならないのである。

何故かといえば、この H_2O ですら、人間が世界をある特定の角度から整理した結果、把握されたものであって、決して最終的な、確実なものではないからだ。 H_2O が水素原子と酸素原子の、ある状況下での結合物であることは明らかで、その水素や酸素の原子にしても、再び更に細かい構成要素の組合せとして捉えられていくというプロセスの繰返しを含んでいる。

(e) 「 H_2O 」という記号、つまり科学的なことばで把握される対象も、虚構という点では、「つらら」や「五月雨」と何等変らない。人間の精神が、人間をとりまくシンラバン^⑤ ショウの世界に働きかけて作り出すことばは、すべてこの虚構性に支えられているのである。

人間は生のあるがままの素材の世界と、直接ふれることはできない。素材の世界とは、渾沌^{こんとん}とでも、カオスとでもいふべき、それ自体は無意味の世界であって、これに秩序を与え、人間の手におえるような、物体、性質、運動などに仕立てる役目を、ことばがはたしていると考えざるを得ない。

(鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書による)

問一 傍線部①～⑤と同じ漢字を含むものを、それぞれのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

① カイシヤク

ア シヤクヨウ書にサインする

イ バンシヤクを楽しむ父親

ウ 労多くてマシヤクに合わない仕事

エ シヤクメイ会見を開く

② ジメイ

ア 偉人たちのメイゲン集

イ コンメイを深める政局

ウ ミヨウチヨウ六時に出発する

エ 役者ミヨウリに尽きる

③ カイギ

ア アンテイークなカイチユウ時計

イ 委員会をカイサンする

ウ カイテキな環境の仕事場

エ テレワークでカイギに参加する

④ キする

ア 万全をキして試合に臨む

イ キコクの途につく

ウ キジョウの空論

エ キソ工事が始まる

⑤ シンラバンシヨウ

ア 鳩はとは平和のシヨウチヨウである

イ 企業のシヨウチ活動に力を入れる

ウ アンシヨウ番号を入力する

エ 宮廷画家が描いた国王のシヨウゾウガ

問二 文中の空所 にあてはまる言葉の最も適切な組み合わせを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

い。ただし、同じ記号には同じ言葉が入る。

ア A—しかも B—それだけでも C—だから

イ A—しかし B—そればかりか C—もつとも

ウ A—だから B—それどころか C—おまけに

エ A—そのため B—それにしても C—逆に

問三 傍線部(a)「water」ということばが、温度に関しては、元来中立的な性質を持っている」とあるが、それはどういふことか。

最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア waterということばは、もともと「熱い」と「冷たい」の中間くらいの温度の水を言い表すものであるということ。
- イ 極端に熱かったり冷たかったりする場合を除けば、そもそも液体の水であれば water で言い表せるということ。
- ウ waterということばは、熱いとか冷たいとかの温度に関係なく、もともと液体の水を表すだけであるということ。
- エ waterということばには温度による曖昧な区別あいまいがなく、論理的な言語である英語の特徴を備えているということ。

問四 傍線部(b)「恣意的な区分にすぎない」とあるが、それはどういふことか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記

号で答えなさい。

- ア 論理的な必然性にしたがって区分しているだけであるということ。
- イ 論理的な必然性がなく勝手に区分されたものでしかないということ。
- ウ 同じものでもわざと違うものであるかのように区分せざるを得ないということ。
- エ ももの特性に裏付けられた要因にしたがって区分した結果にすぎないということ。

問五 傍線部(c)「ものとしてのつららが立派に存在するトルコで、『氷』*buз*と区別された『つらら』ということばがなくても不思議ではない」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 氷とつららの違いは日本語の水と湯のように同じものを別の角度から見た区別でしかなく、*water*に水と湯の区別がないのと同じく、つららが存在するトルコでも氷と区別したつららにあたる言葉がなくても変ではないということ。

イ 氷とつららの違いは日本語の水と湯とは違って生じる場所と形状が異なるため、本来であればつららが存在するトルコでも氷と区別したつららにあたる言葉があるべきなのだが、それが無いのは単純に文化の違いでしかないということ。

ウ 氷とつららの違いは日本に独特な区別の仕方であり、日本とは文化や価値観が異なるトルコに立派なつららが存在したとしても、日本人と同じ感性で氷と区別した「つらら」にあたることばがないのはむしろ当然だということ。

エ 氷とつららの違いは固有の性質によって裏付けられ区別されたことばであるが、トルコでは氷とつららの性質の違いはそれほど重要ではないため、氷と区別した「つらら」にあたることばがないのはむしろ当たり前であるということ。

問六 (d)の点線で囲まれた文の趣旨に合致しないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「氷」「水」「ゆげ」「露」「春雨」などは、名前だけあって実体のない存在でしかない。

イ 化学式 H_2O と一括できる同一のものが「氷」「水」「露」など何十もの名称で呼ばれている。

ウ 化学式 H_2O だけが確実な実体として存在し、それ以外の「露」「霜」などはすべて虚構だとする考えは違っている。

エ 確実な実体として存在するのは H_2O だけであり、そこから派生する「湯」や「夕立」などはすべて対象の側に必然的な裏付けのない虚構である。

問七 傍線部(e)「『H₂O』という記号、つまり科学的なことばで把握される対象も、虚構という点では、『つらら』や『五月雨』と何等変らない。」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 化学式で表されるH₂Oは、「つらら」や「五月雨」と違って科学的に物質を解明した結果つけられた名称であるため、科学の世界では確実に存在する実体であっても、日常生活ではその実体を確認できない虚構でしかないため。

イ 化学式で表されるH₂Oは、「つらら」や「五月雨」と違って科学的な裏付けのある確実な実体と言えないこともないが、さらに科学が進歩すればH₂Oの定義も変わる可能性があり、現時点では虚構とみなすのが妥当であるため。

ウ 化学式で表されるH₂Oも、人間がある世界をある特定の観点から切り取って名づけたものである点においては、「つらら」や「五月雨」と同じように対象の側に必然的な裏付けのない虚構であるため。

エ 化学式で表されるH₂Oも、「水」と「つらら」が区別されるように、ある状況下においては別のさまざまな名称で呼ばれる可能性があり、それが最終的に確実に存在する実体であるという保証がないため。

問八 筆者は「ことばのはたらき」をどのように考えているか。次に示す二つの言葉を用いて100字以内(句読点を含む)で記述しなさい。ただし、解答用紙の先頭の一マス目を空けて書かなくてよい。下書きが必要であれば、29～30ページの下書き用原稿用紙を自由に使いなさい。

素材の世界

切り取る

国語 解答用紙 正解と配点

一	
問六	問一
イ	ウ
問七	問二
ウ	エ
問八	問三
ア	オ
問九	問四
エ	エ
問十	問五
オ	カ

各2点×10

受験番号
氏名

二					
問八			問二	問一	
と	れ	な	ぎ	「	①
を	て	感	よ	ほ	ア
し	し	じ	う	ら	問三
て	ま	で	し	、	②
し	う	B	く	君	エ
ま	こ	を	切	の	問四
っ	と	見	符	切	ア
た	に	下	を	符	問五
と	あ	し	渡	「	ア
思	と	て	し	と	問六
っ	か	い	た	言	ウ
て	ら	る	時	っ	問七
い	気	よ	の	て	ウ
る	づ	う	態	A	問七
か	き	に	度	が	ウ
ら	、	B	が	B	各4点×6
。	ま	か	、	に	
	ず	ら	偉	ぎ	
	い	思	そ	よ	
	こ	わ	う	う	

10点

二

小計40点

三									
問八			問三	問二	問一				
ら	よ	り	ら	こ	ウ	ア	①		
き	う	取	で	と	問四	3点	エ		
を	な	る	き	ば	イ		②		
し	物	こ	な	は	問五		ウ		
て	体	と	い	、	ア		③		
い	や	で	素	そ	問六		ア		
る	性	秩	材	れ	エ		④		
と	質	序	の	自	問七		イ		
筆	、	を	世	体	ウ	各4点×5	⑤		
者	運	与	界	は			ア		
は	動	え	を	無			④		
考	な	、	、	意	問七		イ		
え	ど	人	特	味	ウ		⑤		
て	に	間	定	で			ア		
い	仕	の	の	触					
る	立	手	角	れ					
。	て	に	度	る					
	る	お	か	こ					
	は	え	ら	と					
	た	る	切	す					

12点

三

小計40点

- 1. ●問八の採点基準
「こと」は「素材の世界」を「切り取る」ことで秩序を与えるはたらきをもつ（34字）の組み立てをひな型として、そこに的確でわかりやすい補足が加わって60字を超えていること。
- 2. 基本的には最終段落をなぞるようにして、日本語として意味がわかる要約ができていれば可。
- 3. 「素材の世界」と「切り取る」の両方の言葉が入っていない場合は0点。

計

100点満点
